

初年次必修科目「地域学入門」の2012年度授業実践報告

竹川 俊夫*

A Report on Classroom Practice of a Compulsory First-Year Subject of
“Introduction to Regional Sciences” in the School Year 2012

TAKEGAWA Toshio

キーワード：地域学 地域学部 地域学入門 初年次教育

Key Words: Regional Sciences, Faculty of Regional Sciences, Introduction to Regional Sciences, first year education/experience

1. はじめに

鳥取大学地域学部における初年次必修科目「地域学入門」は、2004年度の開講から数えて2012年度で9期目に入る。また、前任の担当教授に代わって筆者がコーディネーターを受け持つようになって2年目となるが、前任者の時代までに固められた基本枠組みを継承しつつも、毎年新しい試みも織り交ぜつつより良い講義づくりに取り組んでいるところである。これまでは、学内外の講師による「地域学」の理論・実践にかかわる基礎的な講義のほかにも、冒頭の約15分を使った予習事項の発表や、学科担当教員と新入生とのディスカッションを実施するなど、200名余りの学部同級生が一堂に会する前で、可能な限り新入生に発言の機会を与えて彼らの変容を促そうとする「参加型・ゆさぶり型の授業」を実践しながら講義の基本構成を固めてきた¹。

2012年度も基本的にこれまでのスタイルを継承しているが、後述の通り、2011年度の実践をふまえて講義計画や講義内容を大きく変更した部分がある。また、2011年度の下半期に「地域学入門」と「地域学総説」のあり方に関して各学科からの意見を集約し、地域学入門・地域学総説の講義内容を検討する「企画会議」の中で講義計画に一部見直しを実施された点もあるので、以下ではそうした点を重点的に振り返りながら、2012年度の地域学入門の履修者の動向や講義運営の詳細を述べるとともに、最終講義の際に実施した学生アンケートの分析などを通じて、次年度に向けた課題を検討したい。

* 鳥取大学地域学部准教授（地域政策学科）

¹ 地域学入門に関するこれまでの取り組みの詳細については、渡部昭男・竹川俊夫・土井康作・野田邦弘・岡田昭明（2009）「初年次必修科目『地域学入門』における地域学部新入生の変容—2009年度における授業実践のまとめ—」『地域学論集』6(2), pp.69-104, 並びに渡部昭男・竹川俊夫・足立和美・鶴崎展巨（2010）「初年次必修科目『地域学入門』における地域学部新入生の変容（第2報）—2010年度における授業実践のまとめ—」『地域学論集』7(2), pp.157-96, 竹川俊夫・土井康作「初年次必修科目「地域学入門」の2011年度授業実践報告」『地域学論集』8(3), pp.75-104, を参照されたい。

2. 2012年度新入生の状況

まず入試区分別に見た2012年度新入生の状況を確認する。地域学部4学科と各学部の入学者を入試区部で整理し、それぞれの割合を算出したものが表1である。

表1 入試区分別入学者数一覧

	AO		推薦		特別		前期		後期		合計	
	入学者	割合(%)	入学者	割合(%)	入学者	割合(%)	入学者	割合(%)	入学者	割合(%)	入学者	割合(%)
地域政策学科	7	14.0	4	8.0			29	58.0	10	20.0	50	100.0
地域教育学科	4	8.0		0.0			36	72.0	10	20.0	50	100.0
地域文化学科	5	9.3	6	11.1			31	57.4	12	22.2	54	100.0
地域環境学科	4	8.7	4	8.7			34	73.9	4	8.7	46	100.0
地域学部	20	10.0	14	7.0			130	65.0	36	18.0	200	100.0
医学部			64	23.6			155	57.2	52	19.2	271	100.0
工学部	3	0.6	38	8.2	1	0.2	315	68.0	106	22.9	463	100.0
農学部	16	6.7	52	21.7			150	62.5	22	9.2	240	100.0
鳥取大学	39	3.3	168	14.3	1	0.1	750	63.9	216	18.4	1,174	100.0

(注)学部合計および鳥取大学合計の上段は私費外国人留学生を外数で示したもの。
出所)鳥取大学「平成24年度入学試験に関する調査」を元に筆者作成。

私費外国人留学生を除いた鳥取大学全体の入学者 1,174 名のうち、地域学部に入学者は 200 名であった。また学科別の入学者数は、地域政策学科 50 名、地域教育学科 50 名、地域文化学科 54 名、地域環境学科 46 名であった。学科ごとの入学者の特徴を入試区分から見てみると、地域政策学科は相対的に AO 入試での入学者の割合が高く、後期入試での入学者の割合が低いという特徴が見られる。地域教育学科の特徴としては、推薦入試の入学者がいないことと前期入試で入学する学生の割合が高いことが指摘できる。一方、地域文化学科は、前期入試での入学者の割合が最も低く、一方で後期入試での入学者の割合が最も高くなっている。地域環境学科は AO 入試入学者の割合が低く、後期入試での入学者の割合が地域文化学科に続いて高いという特徴が見られる。

次に、表1で地域学部と他学部との違いに目を転じると、地域学部は AO 入試での入学者の割合が比較的高いのが特徴である。次に入試区分以外のデータを参考にして入学者の特徴を捉えてみると、まず地域学部入学者の男女構成比については、男子 44.0%に対して女子 56.0%と、医学部 (58.3%) に次いで女子の割合が高い。反対に男子の割合が最も高いのは工学部で、男子 87.0%に対して女子は 13.0%となっている。また、地域学部入学者の出身高校の所在地については、県内高校出身者の割合が 34.0%であり、医学部 (23.2%)、工学部 (13.4%)、農学部 (12.5%) と比較して地元出身者の割合が高いのが特徴である。

このほか2012年度の特徴として指摘できるのは、発達障がい (アスペルガー症候群) のある学生の受け入れである。地域政策学科の AO 入試において、小論文などの筆記に著しい困難のある受験生に対してパソコンの使用を認める合理的配慮を実施し、障がいがあっても大学が要求する一定の学力を持つ学生を受け入れる運びとなった。「地域学入門」では当該学生に対して、毎回の講義終

了時に紙媒体で提出を求めている「出席カード」について、講義終了後にワードの定型フォームに直接記入のうえ、直接筆者までメールで提出するなどの履修条件の調整を行った結果、極めて順調に単位取得へと至った。

3. 2012年度の講義概要

(1) スタッフ体制と役割分担

本講義は、コーディネーター（1名）と各学科・センターから選出された学科担当教員（5名）の計6名が運営面を担い、各回を担当する学内外の講師陣と連携しながら講義を進めている。また、資料の印刷や配布、講義室のPCや音響機材のセッティングなど、講義全般をサポートするためにティーチング・アシスタント（TA）が2名配置されている。2012年度は、コーディネーターを筆者が務め、学科担当教員は、馬場（地域政策学科）、児島（地域教育学科）、小泉（地域文化学科）、寶來（地域環境学科）そして五島（芸術文化センター）がそれぞれ担当した。またTAを務めたのは、地域学研究科地域創造専攻のライ・ジョウ（M2）と本部響子（M1）の2名である。

①コーディネーターの主な役割

コーディネーターの主な役割は、まず、前年度の12～1月頃に地域学研究会幹事会の下に置かれる「企画会議」にその年の実績や課題をふまえて次年度の講義計画案を提出し、会議メンバーとともに内容検討を実施することである。ここで講義計画案が承認されると、次に次年度の講師候補者に講師の依頼とともにスケジュール調整を行う。さらに3月から新年度当初にかけて、大学院生のM2や新規入学予定者からTAを選任して事務体制を確立させる。なお、TAの業務は複雑かつ多岐にわたるため、4月当初にTAの雇用申請をする段階で候補となった2名に対して業務に関する説明会を実施し、納得の上でTAを引き受けてもらっている。

講義計画やスタッフ体制が固まると4月の講義開始に向けて、まずは講義に使用する配布資料を印刷するタイミングをTAと相談のうえ、各回の講師やその他資料の提出を希望している関係者にTAが印刷作業する日時に間に合うよう締切日・時間を設定して提出を依頼する。2012年度は月曜の18時以降をTAの作業時間として設定し、筆者が各回の講師などから受け取った原稿を一通りプリントアウトし、印刷の様式や部数・カラーの有無などの詳細を指示してTAに印刷作業を委ね、毎週水曜の講義に備えた。

講義におけるコーディネーターの役割は、まず初回講義の冒頭に、学科担当教員を紹介しつつ半期15回の講義の進め方や単位認定の方法等に関するオリエンテーションとテキスト『地域学入門』に関する説明を行う。また、各回の講義でも司会進行を務めて、新入生が教室に配布資料を受け取って着席するところから講義が終わって退室するまでの流れを把握し、コントロールする役割を担う。講師による講義はもとより恒例となった講義の冒頭の学生発表も含めて事前に段取りを明確に説明し、登壇者がそれぞれの役割をスムーズに発揮できるよう条件整備することが必要である。加えて第3部の外部講師の回以外の講義終了後の昼休みは、地域学部棟2290教室においてコーディネーター・学科担当教員・TAのメンバーでミーティングを開催し、回収した「出席カード」に目を通しながら学生の反応や講義内容を振り返り、必要に応じて次回以降の講義で補足説明を行うなど、講義運営に関する様々な調整役になることが求められる。

②学科担当教員の主な役割

学科担当教員は、毎回の講義と講義終了後のミーティングに参加し、学科生の状況を細かく観察しながら、1) 出席管理、2) レポートの講評と採点、3) 学生への個別指導、4) 成績管理、を担当する。1) については、履修学生が提出する「出席カード」をTAが回収し、ミーティングで学生が書いた感想をざっと確認したあと、TAが講師とコーディネーター分をコピーして、最後にカードの原本を学科担当教員が受取り保管する。これにより出席が滞り出した新入生を早期に発見し、学級担当教員と連携しながら早期に必要な対応に繋げることが期待される。2) は、講義期間に3回課されるレポート課題の採点を行うとともに、1・2回目のレポートに関しては、各学科より優れたものを抜粋して学生に見本として参照させるほか、学科学生分を読んだ感想や今後修正すべき問題などを学生にフィードバックするためのコメントを用意する。優秀作品と学科担当教員のコメントについては、コーディネーターが集約して学生に資料としてまとめ配布する。3) については、出席が滞り出した学生へのケアのほか、冒頭の学生発表のサポートや質問への対応、私語をやめない学生への注意など、個々の学生に適宜必要な指導を行う。以上をふまえて最終的な成績を学科担当教員が採点し、システム入力する。なお、本講義における学生の評価はレポートの得点（1回目：20点、2回目・3回目：40点）をベースに出席点を加えた総合評価としているが、評価における比率や具体的な素点の付け方などは、個々の学科担当教員の判断にゆだねている。

③TAの主な役割

TAはコーディネーターや学科担当教員をサポートするために非常に広範な業務をこなす必要があり、TAなしには本講義そのものが成立しないと言って過言でないほど重要な役割を担っている。まず、講義前の準備段階においては、講師などから受け取った配布資料原稿の印刷があり、講義の当日には、パソコン（教務で借りる）やビデオレコーダー（ハンディカム）と三脚、配布資料一式を教室（共通教育棟 A20）に運んで、それぞれのセッティングを行うほか、空調や照明、カーテンの操作などの一連の対応を2名が分担して担う。パソコン・プロジェクター及び音響機器のセッティングのためにはマシンロッカーの鍵を開ける必要があるため、講義開始前に共通教育棟の教務担当までロッカーの鍵を借りにゆく。配布資料については、250部用意した資料の束を目分量で4等分し、教室の最前列に4か所並べる。新入生には学科単位で着席位置を指定しているので、教室に来た学生は、自分が座る位置の最前列に配置されている配布資料を一通り受け取ってから自分が着席するところまで移動する。

講義開始直前には、三脚に据え付けたハンディカムの録画をスタートさせ、講義終了時に電源を切って回収する。講義中は、照明と空調に関してコーディネーターの指示に従って必要な対応を行うほか、講義や総合討論において講師やコーディネーターが質疑応答を行う場合は、マイクを持って質問者のところに駆け寄りマイクランナーの役割を担う。講義が終了すると、教室のステージ上に「政策」「教育」「文化」「環境」「その他」の学科カードを配置し、出席カードやレポートを回収する。また、パソコンや音響機器を片付け、マシンロッカーの鍵をかけたり、カーテンや空調を原状復帰してから退室する。講義が終わると、コーディネーターとともに地域学棟 2290 教室に移動して、学科担当教員とのミーティングに参加し、講義内容や運営のあり方についてTAとして感じたことを率直に語ってもらう。ミーティングが終了したら学科担当教員が目を通した「出席カード」を回収し、ミーティング終了後に学籍番号順に並び替えるとともに、講師とコーディネーター分を両面コピーして、カードの原本を学科担当教員のレターケースに入れる。最後に地域学研究会幹事

及び学科担当教員のうちで講義に参加できなかった教員のレターケースに、各回の資料一式を配布して一連の作業が終了する。

なお、上記以外に毎年1回の作業として、新入生が課題レポートを書く際に読むことが求められる参考図書について、候補となる書籍（新書・ブックレット）の一覧を4月はじめに作成することが求められる。これについては、コーディネーターがネット上の「新書ナビ」というサイトを活用して、地域学に関連する分野やテーマの新書をリストアップする。TAはコーディネーターからリストアップされた新書データを受け取り、それと既存の参考図書一覧を照合しながら未掲載の新しい文献を追加して参考図書一覧を更新する。

（2）2011年度の反省点とシラバスの見直し

2011年度の講義計画の検討においては、企画会議で検討を重ねた結果、新たな試みとして、イントロダクション（1回）、第1部「私たちにもできる身近な地域連携・地域交流活動」（2~4回）、第2部「地域づくり・地域研究の実践」（5~11回）、第3部『『地域学』とは何か』（12~14回）、総合討論（15回）と大幅に構成を変化させた。特に大きな変化と言えるのは、『『地域学』とは何か』という理論学習を最後のパートに移したことである。このような変更が必要とされた理由は、特に前年度までの新入生の反応を観察した結果、入学してすぐの時期は、大学の地域連携活動や実際の地域づくり実践に対するイメージが乏しいこともあり、その段階で理論学習を行うと、理論と実践との関連づけができないため、「地域学とは何か」という問への理論的な説明が理解しづらいのではないかと懸念されたからである。

しかしながら、上記の試みについて、2011年度を受講生の反応やスタッフ教員の振り返りから得られた結論は「失敗」であった。残念ながら企画会議が意図したような、実践と理論の関連づけを促進するという教育的な効果は見られなかったと判断された。むしろ「地域学とは何か」を十分に語らないまま第2~3部で事例の理解を進めようとしたことで、新入生に無用の混乱を招いてしまった感があり、総合討論や授業アンケートを通じて「地域学とは何か」を最初に教えてほしかったというリクエストが散見された。この点に関しては、第3部の講義の中で講師から事例に即した理論の解説が行われず、学生任せの理解になってしまったことが要因だと思われるが、では逆に理論編を担う講師に事例との結び付けを徹底するよう依頼できるかとなると、それもなおさら困難なことだと考えられる。そのため、2012年度の講義計画については、従来型の理論から実践に展開する構成に戻すこととなった。

2012年度に向けた反省点の2点目は、地域環境学科の学生が「地域学」をよりイメージし易くなるように、地域研究や地域づくりの事例を取り上げる数を増やすことであった。地域環境学科については、元々地域学に興味関心を持って進学してくる学生が少ないという事情もあるため、地域学をより身近に感じられるような配慮が必要という課題が浮上した。さらに3点目の問題として、2012年度「地域学総説」「地域学入門」のあり方を検討する過程で地域環境学科から提起された異議申し立てがある。そもそも地域学に学生に教えられるような統一的な研究方法論が存在するのかといった問題提起や総説・入門とも実践学習を外部講師に大きく依存している現状に対して、外部講師をやめて学内教員が講義を提供すべきではないかなどの意見があった。時間の関係で、こうした問題提起をふまえた総説・入門の抜本的な見直しは2013年度に向けた議論で行うこととし、2012年度の講義計画の検討に際しては、1点目と2点目の反省点を中心に対応することとした。

2012年度前期 地域学入門 (水曜2限・共通教育棟A20)		
2013・1・10		
第1部 地域を見る目		
1回	4月11日	①オリエンテーションと学科世話人・講師の紹介 : ①・②は竹川俊夫(地域政策・総括担当) ②テキスト『地域学入門』の紹介 ③地域学とは何か : 光多長温(鳥取大学・特任教授)
2回	4月18日	安藤由和(地域環境・教授) 環境物理学から地域学へ
3回	4月25日	仲野 誠(地域政策・准教授) 地域のつながり
<p>【第1回レポート(5月16日講義終了時提出・20点)】課題: 地域を見る目 1~3回の講義のポイントを要約するとともに、テキスト『地域学入門』の序章~第4章を読んで自分なりに「地域学」について考えてまとめる。家族や友人に「地域学部って何?」と尋ねられた時に少しでも説明できるようになりましょう。 ・体裁: A4版横書1枚、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。本文は40行以内とします。</p>		
第2部 大学の研究から地域連携へ(教員・学生の活動紹介)		
4回	5月2日	土井康作(地域教育・教授) ものづくり道場の実験と因幡の手づくりまつり
5回	5月16日	小玉芳敬(地域環境・教授) ◆レポート提出日 山陰海岸ジオパークへの学術的貢献
6回	5月23日	ケイツ・A・キッペン(地域文化・教授) 地域における国際交流活動
7回	5月30日	高田健一(地域環境・准教授) 過去を未来の一部に
8回	6月6日	野田邦弘(地域文化・教授) 文化と地域再生
9回	6月13日	石谷孝二(芸術文化センター・教授) 芸術文化センターはどんなことをしているの?
<p>【第2回レポート(6月27日講義終了時提出・40点)】課題: 大学が取り組む地域研究や地域連携活動の意義と可能性 ・4~9回の講義において紹介された取組のポイントを簡潔に整理したうえで、教員・学生が実践する地域研究や地域連携活動が地域社会に与えた意義を考察するとともに、大学が地域研究や連携に力を入れることでどのような可能性が拓けるかを論じなさい。 ・テキスト『地域学入門』の他に、必ず1冊以上文献を読んで、レポートに活かすこと(レポートの末尾に必ず参考文献・URLを記載のこと) ・体裁: A4版横書1枚の両面印刷、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。</p>		
第3部 実践の知に学ぶ		
10回	6月20日	塩見直紀(半農半X(エックス)研究所代表)+竹川(政策) 半農半X(エックス)という生き方 ~小さな農と天職と地域づくりと~
11回	6月27日	鈴木康正(津山ホルモンうどん研究会代表)+皆木憲吾(津山市地域振興部次長)+福田(教育) ◆レポート提出日 ホルモンうどんによる地域の活性化
12回	7月4日	三上恵子(南部町教育委員会学校教育室長)+土井(教育) コミュニティスクールの挑戦
13回	7月11日	播磨靖夫(財団法人たんぼぼの家理事長)+岡部太郎(同スタッフ)+五島(芸文センター) ソーシャルデザインとエイブルアート
14回	7月18日	山内道雄(海士町長)+竹川(政策)+学 地域の生き残り戦略
<p>【第3回レポート(7月25日講義終了時提出・40点)】課題: 地域研究と「地域づくり」・「人づくり」 ・地域学部では地域の研究を基礎に「地域づくり」や「地域における人づくり」に取り組む志と能力のある人材を養成します。10~14回の講義内容を簡潔に整理したうえで最も印象に残った実践をひとつ挙げ、将来どのような「地域づくり(人づくり)」に取り組んでみたいか、または在学中にどのような地域研究を学習・研究してみたいかを述べなさい。 ・テキスト第3部(第9~12章)の他に1冊以上文献を読んでレポートに活かすこと(末尾に参考図書に記載すること)。 ・体裁: A4版横書1枚の両面印刷、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。おおよその配分量は、表が講義の整理、裏は印象に残った実践と自分が取り組みたい実践・研究に関する論述+参考文献やURL。</p>		
第4部 全体の振り返り・まとめ		
15回	7月25日	総合討論(学科世話人VS受講生)+まとめ ◆レポート提出日
<p>◎スタッフ: 総括/竹川(政策)、学科担当/馬場(政策)、児島(教育)、小泉(文化)、宝来(環境)、五島(芸文) ◎TA: ライ・ジョウ(政策・M2)、本部響子(文化・M1) ◎1講義(90分)の配分は冒頭15分: 予習事項の発表+60分: 講師の講義+15分: 質疑応答&感想文記入 ◎冒頭15分には各学科より指定された学生が宿題を発表する。また終了時出席票を兼ねた感想文を毎回提出する。4回以上欠席の場合は未履修扱いとします。遅刻・欠席のないように!</p>		

2011年度前期 地域学入門（水曜2限・共通教育棟A20）【訂正版】		
2011・4・27		
イントロダクション		
1回	4月13日	①講義オリエンテーションと学科世話人・講師の紹介：①は竹川俊夫(地域政策・総括担当) ②テキスト『地域学入門』の紹介 ③なぜ今地域なのか、地域学が目指すもの：②・③は柳原邦光(地域文化・教授)
第1部 私たちにもできる身近な地域連携・地域交流活動		
2回	4月20日	野田邦弘(地域文化・教授)＋学生 学生の地域交流活動(えんがわ活動、淀屋サミット等)
3回	4月27日	土井康作(地域教育・教授)＋学生 ものづくり道場の実験と因幡の手づくりまつり
4回	5月11日	ケイツ・A・キッペン(地域文化・教授)＋学生 地域における国際交流活動
<p>【第1回レポート(5月18日講義終了時提出・20点)】課題：学生が参加する地域連携・交流活動の意義と今後の私 ・2～4回の講義においてどのような地域連携・地域交流活動が提示されたかを簡潔に整理したうえで、学生が参加する地域連携・地域交流活動が地域社会や学生自身に与えた意義を考察するとともに、今後自分はどうしたいかを述べなさい。 ・テキスト『地域学入門』の序章と第1章「なぜいま地域を考えるのか」を読んでレポートに活かすこと。 ・体裁：A4版横書1枚、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。本文は40行以内とします。</p>		
第2部 地域づくり・地域研究の実践		
5回	5月18日	山内道雄(海士町長)＋竹川(政策)＋学生 地域の生き残り戦略
6回	5月25日	坂本誠(全国町村会調査室長)＋筒井(政策) 地域における農業の現状とTPP問題
7回	6月3日	村上洋司(岩美西小学校校長)＋小玉(環境) ジオパークを活用した地域づくり
8回	6月8日	三上恵子(南部町教育委員会学校教育室長)＋土井(教育) コミュニティスクールの挑戦
9回	6月15日	鈴木忠志(劇団SCOT主宰)＋野田(文化) 富山県利賀村における劇団SCOTの挑戦
10回	6月22日	鈴木康正(津山ホルモンうどん研究会代表)＋福田(教育) ホルモンうどんによる地域の活性化
11回	6月29日	中間討論(学科世話人VS受講生)
<p>【第2回レポート(7月6日講義終了時提出・40点)】課題：地域学と「地域づくり」・「人づくり」 ・地域学部では「地域づくり」や「地域における人づくり」に取り組む志と能力のある人材を養成します。5～10回の講義内容を簡潔に整理したうえで最も印象に残った実践をひとつ挙げ、将来どのような「地域づくり(人づくり)」に取り組んでみたい(または在学中に学習・研究してみたい)かを述べなさい。 ・テキスト第3部(第9～12章)の他に1冊以上文献を読んでレポートに活かすこと(末尾に参考図書を記載すること)。 ・体裁：A4版横書1枚の画面印刷、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。おおよその配分量は、表が講義の整理、裏は印象に残った実践と自分が取り組みたい実践・研究に関する論述＋参考文献やURL。</p>		
第3部 「地域学」とは何か		
12回	7月6日	仲野 誠(地域政策・准教授) ローカルとグローバル
13回	7月13日	吉村伸夫(地域文化・教授) 地域で生きる
14回	7月20日	光多長温(鳥取大学・特任教授) 地域学について
<p>【第3回レポート(7月27日講義終了時提出・40点)】課題：「地域学」とは何か ・12～14回の講義のポイントを要約するとともに、第1部・第2部の講義で学んだ実践事例や参考文献の内容をふまえながら、鳥取大学の考える「地域学」とは何かをまとめてください。 ・テキストの第1章から第8章を読む他に、新たに1冊以上文献を読んでレポートに活かすこと(レポートの末尾に参考図書を記載すること)。レポート上に参考文献に関する記述が見当たらない場合は減点になります(第2回レポートも同様)。 ・体裁：A4版横書1枚の画面印刷、40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載。おおよその配分量は、表が講義のポイント整理、裏はテキストや参考文献をふまえた「地域学」に関する論述＋参考文献やURL。</p>		
15回	7月27日	総合討論(学科世話人VS受講生)＋まとめ
<p>◎スタッフ：総括／竹川(政策)、学科世話人／馬場(政策)、土井(教育)、ケイツ(文化)、中原(環境)、西岡(芸文) ◎TA：森口(政策)、国影(文化) ◎1講義(90分)の配分＝冒頭15分：予習事項の発表＋60分：講師の講義＋15分：質疑応答&感想文記入 ◎冒頭15分には各学科より指定された学生が宿題を発表する。また終了時出席票を兼ねた感想文を毎回提出する。4回以上欠席の場合は未履修扱いとします。遅刻・欠席のないように！</p>		

(3) 2012年度の講義概要と運営の工夫

以上をふまえて再構築されたシラバスは、第一部「地域を見る目」、第二部「大学の研究から地域連携へ（教員・学生の活動紹介）」、第三部「実践の知に学ぶ」、第四部「全体の振り返り・まとめ」の4部構成となった。各部の講義のポイントを簡単に整理すると以下の通りである。

第一部（1-3回）の初回の講義（担当：光多先生）では、地域学の定義や地域研究の系譜ならびに地域学の特徴・特色（横串モデル）を概論的に紹介した後、幸福度をはじめとする様々な統計によって地域の多様性を示すとともに、新しい学問フロンティアとしての地域研究の可能性が語られた。第2回目（担当：安藤先生）には、物理学の特徴をとらえつつ環境問題と物理学との関係性を例に文理融合型のマルチメソッドで地域課題と向き合う地域学の特徴が示された。第3回目（担当：仲野先生）は、客観的に地域をとらえるのとは異なるく自分にとっての地域を指定する関係的・主観的なアプローチが語られた。

続いて第二部（4-9回）では、学生にとって身近な教員や先輩学生による地域連携や地域づくり実践を学んだ。第4回（担当：土井先生）は、土井教授が取り組む「ものづくり道場」と「因幡手づくりまつり」について説明が行われた後、「因幡手づくりまつり」の準備に当たっている学生リーダーが登壇して、新入生に活動の様子を語るとともに、関心のある新入生に広く参加を呼び掛けた。第5回（担当：小玉先生）は、地形や地理を専門に鳥取砂丘研究に取り組む小玉教授が、その研究成果とともに山陰海岸ジオパークの展開にどのように活用しているかが示された。第6回（担当：ケイツ先生）では、ケイツ教授のこれまでの人生経験が語られた後、教授が関わっている国際交流活動がいくつも紹介された。その主な活動は、「タイム（とっとり国際交流連絡会）」、「鳥取県国際交流センター」、「鳥取市国際交流プラザ」、「鳥取大学国際交流センター」、「鳥取大学国際交流サイト」、「ピースボート」、「アジア青年会議」など多岐にわたり、さらにこれらの活動に参加している留学生や先輩学生が登壇して、新入生に広く参加を呼び掛けた。第7回（担当：高田先生）では、考古学のアプローチについて解説があった後、イギリスを例に保存した文化財を観光資源として地域活性化に活用する取り組みが示された。第8回（担当：野田先生）では、大学の社会的役割や地域学部の地域連携教育の体系等がレクチャーされた後、実際に活動に参加している地域文化学科の先輩学生が登壇し、自分たちの活動を紹介しつつ新入生に参加を促した。第二部最後の第9回（担当：石谷先生）では、芸術文化コースの教員が実践している様々な地域連携プロジェクトが紹介された。学生による地域連携活動としては、第5回に「えんがわ事業」と「倉吉淀屋サミット」、第6回に上述した「タイム」などの学生活動、第7回に「南部町・海士町訪問研修」、第8回に「旧横田医院ホスピタイルプロジェクト」が紹介され、第9回には芸術文化コースの学生による地域調査実習の成果が紹介された（テーマ：麒麟獅子）。

外部講師による実践研究シリーズとなる第三部（10-14回）では、第10回に半農半エックス研究所の塩見直紀氏より、自給自足的な小さな農と生きがいとしてのエックスで環境問題や様々な地域課題を乗り越えることができるという半農半エックスのコンセプトが解説されるとともに、ワークシートを用いて生きがいとしてのエックスを発見するためのミニワークショップが開催された。第11回は、昨年度に続き現在のB級グルメブームの火付け役となったB級グルメグランプリの老舗である津山ホルモンうどん研究会代表の鈴木康正氏と、津山市地域振興部次長の皆木憲吾から、地域おこしに向けた活動の舞台裏やその社会的影響ならびに活動の意義などについて映像を交えたレクチャーが行われた。第12回は、南部町教育委員会の三上恵子先生より、南部町会見小学校で取り組まれているコミュニティ・スクールの実践の意義や課題について事例紹介が行われた。なおこの講

義を受けて昨年9月に再び南部町へのフィールドワークが実施されている。第13回は、財団法人たんぼの家の播磨靖男理事長とスタッフの岡部太郎氏から、知的障がい者の潜在能力をアートという手法で引出すとともに、アート活動を通じて障がい者のノーマライゼーションと地域づくりを同時に推進するエイブルアートプロジェクトについての紹介があった。第三部の最後、第14回を飾ったのは今年度が4度目の登壇となる海士町長の山内道雄氏であった。過疎・高齢化が進む小さな離島の存亡をかけて氏が取り組んできた海士町の行政改革と地域の生き残りのための戦略と成果が語られると学生から大きな反響が起こり、2012年度もまた9月3～5日の2泊3日で海士町訪問研修が実施された。なお第三部においては、それまで実施してきた講義終了後の昼休みのミーティングの代わりに、外部講師と学生・教員らとの「意見交換会」を実施した。講師によって数の多い少ないはあるが、昨年度よりも多くの学生が意見交換会に参加してくれたと感じている。特に塩見直紀氏の回と山内町長の回は、学生・教員だけでなく一般参加者も含めて大勢の人たちが地域学棟1階の大会議室に駆けつけ、昼食をとりながら講師と質疑応答を繰り返した。

そして第15回目の最終講義では、総合討論と題して履修者と教員が向き合い「地域学」について意見を交わした。2011年度までは途中にもう1度中間討論の回を設けていたが、シラバスの見直しの中で、地域環境に関する事例紹介を増やす必要があることや、なるべく多くの学内の教員が講師として参加するべきという意見があったため、外部講師による実践紹介を1回と中間討論の回を削減して、その2回分を第二部の本学教員による地域連携・地域研究活動の紹介に割り当てた経緯があった。そのため今年度は1回のみとなってしまった討論会であるが、1回のみになった分なるべく多くの学生が参加できて、かつ地域学の輪郭を最後の講義で改めてしっかりと確かめる作業が必要であるという考え方から、「地域学に関するキーワード」を発表してもらい、教員の意見と重ね合わせながら地域学のエッセンスをワークショップ感覚で理解させるという手法を試みた。以下その作業の流れを整理する。

【総合討論の進め方】

①ステージ上の配置と役割分担

ステージ上にファシリテーター席（長机1本）と学科担当教員の席（長机2本）をつくり、筆者がファシリテーターを務め、学科担当教員がコメンテータを務めた。学生の発言を拾い上げていくため学科担当教員の一人が講義室のホワイトボードに書き込む書記を担当した。



外部講師による講義風景（第14回・山内道雄海士町長）

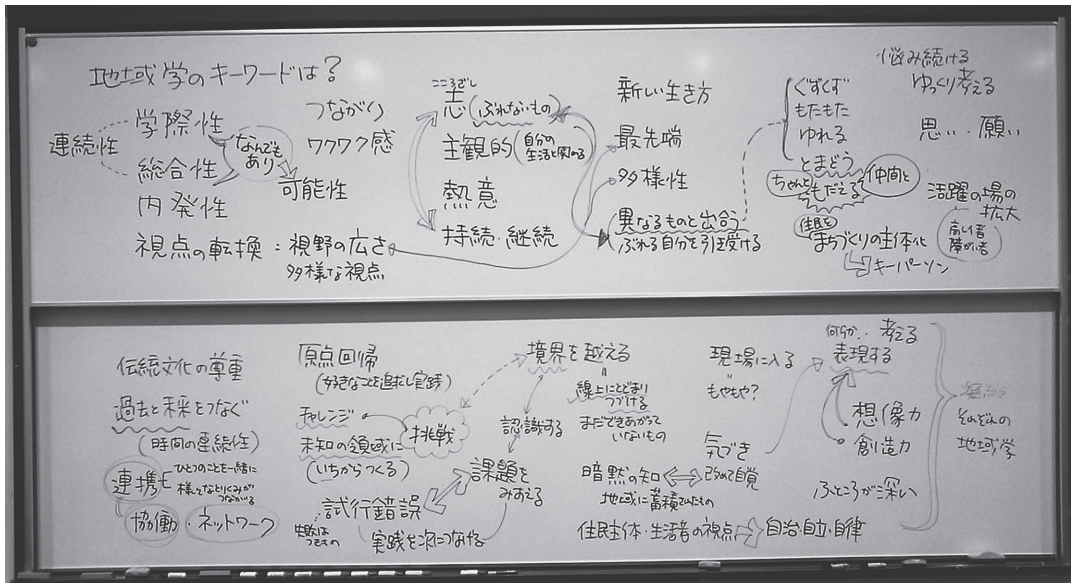


講義終了後の意見交換会の様子（講師：塩見直紀氏）

②ワークショップの進め方

- 1) 学科担当教員より、これまでの講義を振り返っての一言と印象に残った実践事例とその理由をコメント (1人5分程度)
- 2) 第一部の講義で提起された「地域学」のキーワードと第3部の実践との関係を竹川が整理ア。学際性・総合性 (光多・安藤) …海士町, エイブルアート
イ. 内発性 (光多) …海士町, 津山市
ウ. 視点や発想の転換 (仲野) …半農半X, コミュニティ・スクール, 海士町
- 3) 上記以外の「地域学」のキーワードについて学生から発表
・想定される回答として「生活者・住民の視点に立つ」「自主性・主体性・自発性」「自律・自立・自治」「新しい価値の創造」「交流・連携」などを想定し、学生からの発言が少なく議論が展開しない場合には、学科担当教員から発言を求めることとした。
- 4) キーワード洗い出しのまとめ (竹川: 5分程度)
- 5) 調査実習の簡単な紹介と学科担当教員からのアドバイス (1人2分程度)

スタッフミーティングで以上の流れを確認し、総合討論に進んだところ、心配された発言の滞りはなく、多くの学生から次々と挙手があり、キーワードの発言が進んだ。学生・教員の発言を書き留めたホワイトボードは、以下のようにたくさんのキーワードでびっしりと埋まった。学生が発言したどのキーワードも「地域学」の特徴をとらえたものといえ、スタッフミーディングにおいても、体系的な理解にまでは及んでいないかもしれないが、「地域学」のイメージは十二分につかんでいるのではないかという評価になった。これは逆に言うと、初年次必修科目として「地域学」の入門的位置づけにある本講義が、その目的・役割をしっかりと果せている証になるのではないだろうか。



講義終了後のホワイトボード。発言された様々なキーワードを相互に関連づけながら書き留めた。

4. アンケート結果にみる新入生の変化

(1) 学生アンケートのねらいと方法

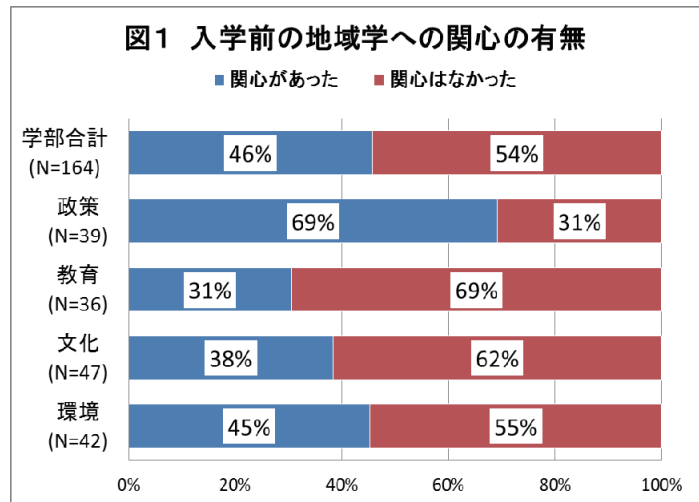
これまで今年度の「地域学入門」の講義概要や講義の運営について詳述してきたが、ここではこうした一連の講義を受けた新入生にどのような変化が生じたかを、7月25日の最終講義の際に新入生から回収したアンケートを中心に検討する。

本アンケートのねらいは、次の3点を明らかにすることである。すなわち、①「地域学」に対する新入生の関心が、学科や志望度によってどの程度異なるのか、②「地域学入門」を受講することが「地域学」への興味・関心を高めることに役立っているのかどうか、そして、③地域学への興味・関心が高まっているとすれば、それは講義のどの部分の影響が大きいのか、である。なお本アンケートについては、最終講義の際に主旨や設問内容を説明し、回収については講義終了後に学生一人ひとりが大学の教務システムに入力するという方法を用いた。そのためその場で質問票を回収する方法と比べて回収数が少なくなり、総数は164名（受講生の約8割）に留まっている。

(2) アンケート結果①：新入生の地域学への関心の有無

1) 学科別に見た地域学への関心の有無の傾向

図1は入学前の地域学への関心の有無を学科別に示したものである。学部合計では、「関心があった」割合が半数弱の46%であったのに対して、「関心はなかった」が54%と、半数強の学生が地域学への関心を持たずに入学している。ただし、昨年に同様のアンケートを実施した時より「関心があった」と回答した学生は10ポイント程度高くなっており、年度によってかなりバラつきがあることを補足しておく。



一方、関心の有無を学科別に見た場合、「関心があった」の割合は、地域政策の69%（昨年度：58%）を筆頭に、地域環境：45%（18%）、地域文化：38%（同28%）、地域教育：31%（同36%）と減少しており、最多の地域政策学科と最少の地域教育学科では38ポイントもの大差が存在している。前年度の比較という点では、地域教育学科以外の学科は増加しており、とりわけ地域環境学科が27ポイントの大幅増加となっている。学科別に年次を追って見た場合、関心の有無はさらにバラつきが大きいようである。

2) 学科別に見た志望度と地域学への関心の傾向

図2は、第一志望か否かの志望度と地域学への関心の有無をあわせて学科別に示したものである。学部合計では、第一志望の割合が49%（前年度：46%）、第一志望以外が51%（同54%）と第一志望とそれ以外の新入生が拮抗している。これらに地域学への関心の有無という要素を加え

る。一方、否定的な回答である「あまり高まらなかった」の割合が比較的高いのが環境と教育であるが、それでもそれぞれ17%と11%に留まっているので、概ね学科を超えて本講義が学生の地域学に対する興味・関心を高める高い教育効果を持つと言っても差し支えないだろう。

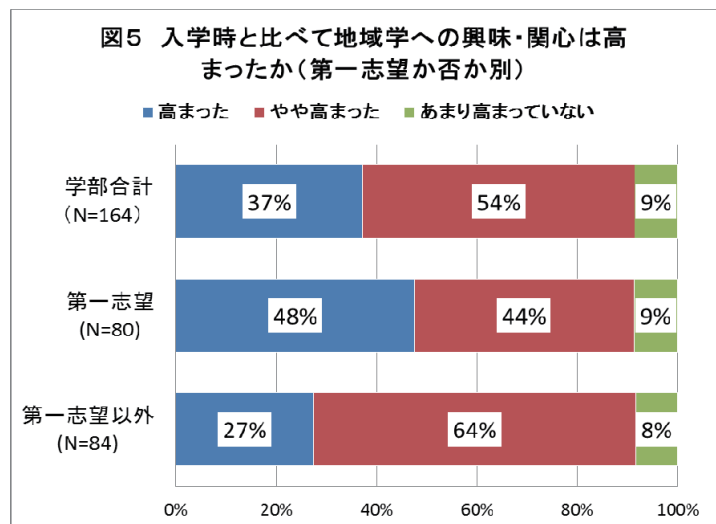
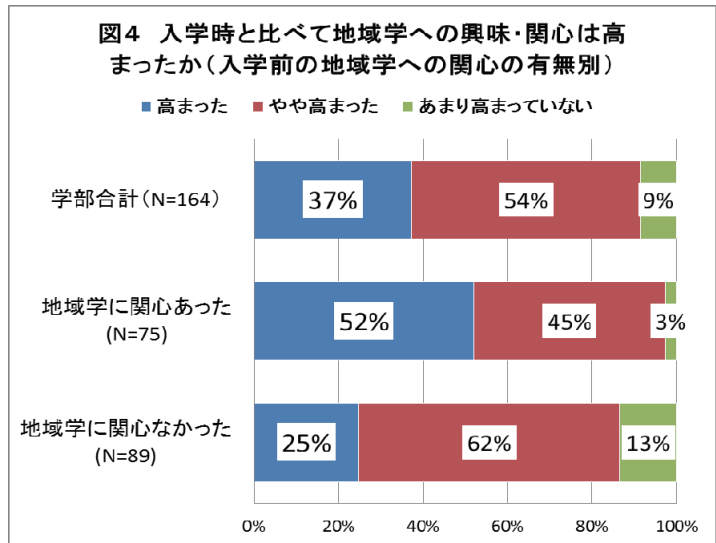
2) 地域学への関心の有無や志望度と地域学への興味・関心高まりの相関

地域学入門の高い教育効果を確認したところであるが、よりその効果を得ている学生はどのような層なのかを分析したところ、図4の通り、特に地域学に関心があった層では97%（高まった：52%、やや高まった：45%）とほぼ全員に肯定的な変化があったことが分かる。一方地域学に関心が無かった層の「高まった群」は87%（高まった：25%、やや高まった62%）であり、関心あり層と比べると肯定的な変化を示す割合は10ポイント少ない。とりわけ「高まった」の割合は、関心あり層は52%なのに対して、関心が無かった層は半分以下の25%に留まっている。

一方、志望度別に興味・関心の高まりの傾向を捉えた図5をみると、やはり第一志望の学生の48%が「高まった」と回答しており、第一志望以外の学生の「高まった」が27%なのに対して21ポイントも上回っている。

やはり、当然といえば当然のことになるが、入学試験に

おいては、なるべく多くの学生が地域学に興味・関心を持って本学部を志望し、それも第一志望として選択されるように、我々としては学部の魅力をさらに高めていく努力が必要になるだろう。そしてまた、単に「学力」を評価するだけでなく、「地域学への関心」を多角的に評価して学生を選抜することができる入試のあり方が望まれるであろう。とはいえ、たとえ事前に興味・関心がなくても9割に近い学生に肯定的な変化が現れたというのは特筆すべきことであり、地域学の導入的位



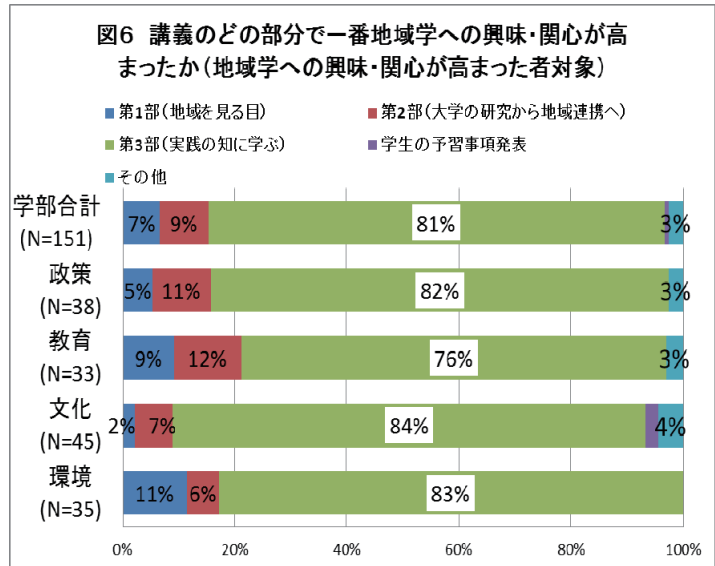
置つけにある講義としては、その目的を十分に果たしていると評価することができるのではないだろうか。

(4) アンケート結果③：講義のどの部分で興味・関心が高まったか

図6は上記(3)で見た新入生の地域学への興味・関心の変化が、地域学入門のどのパートによって強く影響を受けているかを学科別に示したものである。

どの学科も共通して最もその割合が大きいのは、外部講師を中心に地域づくりや地域研究の実践を紹介した「第三部(実践の知に学ぶ)」であり、8割前後の高い支持を集めている。以下、教員や学生の地域連携・地域交流活動を紹介した「第二部」(9%)、「地域学とは何か」について

教員からの理論的な説明を行った「第一部」(7%)と続くが、教育学科については、他学科よりも相対的に第三部に対するポイントが低く、反対に第二部・第一部のポイントが高くなっているのが特徴である。



(5) アンケート結果④：その他(自由記述)

1) 地域学のキーワード(いくつでもOK)

学科	地域学のキーワード
政策	総合性、多面的に見る視点、人とのつながり、人
政策	人と人 人と空間 バランス 繋がり 郊外 アイデンティティ 発想 自由 誇り
政策	総合性、多様性、主観性
政策	つながり、ゆっくり、新しい生き方、なんでもあり、可能性
政策	連携、連帯、自発性、創造、持続力、多感、多様、柔軟、つながり、ドキドキ、共に、協働、地域愛、悩む、試、行錯誤、可能性、熱意、本気、志、記す、ネットワーク
政策	自主的、本気、つながり、おもしろさ・楽しさ、生き方そのもの
政策	地域愛、わくわく、可能性、つながり
政策	多様性 多角的 複雑
政策	外部的視点、住民、情報、多種多様、先導者、交流(つながり)、協力、出発点、根性、本気
政策	主体性、継続性、具体性、緊張感、自由、本気度
政策	継続性、熱意、最先端、未知、試行錯誤

政策	当事者性、人とのつながり、地域に出て活動する、ワクワク感、ふれあい
政策	主体性、温故知新、俯瞰かつ密着
政策	個性的、地域の目、過去・未来、フィールドワーク、挑戦、実践、連携、協働、愛着、住民、やる気、共通、広域、狭域、興味、可能性、自発的、キーパーソン
政策	知識の集積、国際的、協働、新しいもの(new word)、多種多様、熱意、同じ目標、広範囲の分野、自分で見つける、枝分かれ、考え抜く、正解はない、とりあえずやってみる
政策	人との輪
政策	つながり
政策	志、実践性、地域のプロフェッショナル、連続性、関係性、信頼感、希望、わが町の誇り、ローカル・アイデンティティ、価値観、経験、現場性、独自性、出会い、思い、願い
政策	地元産業・視点の転換、地域資源、地域再生、内発性、地元愛、ゆっくり、ぶれる、仲間ともだえる、覚悟、
政策	熱意 可能性
政策	連携、現場、地域に根差したもの、ワクワク感、内発的、地域資源、多種多様な人々とのかかわり、(地域住民の)本気度、熱意、主観的
政策	志、熱意、つながり、何でもアリ、実践、地域愛、住民意識
政策	人とつながる、地域とつながる、地域と共に生きる、横串的学問、言葉を大切にする、他分野との連携・ネットワーク、高い志、本気、主観的、多様性、可能性、最先端、ぐずぐず、もたもた、戸惑う、仲間ともだえる 原点回帰、試行錯誤、創造・想像力、異なるものと出会う、境界を超える
政策	「志」を持つこと、連続性、学問の総合と統合、つながり、熱意、なんでもあり
政策	協働、交流、多様性、融合
政策	想像力、創造力、発想力、つながり、熱意、観察力、行動力、密着、根気、体力、愛着
政策	多様性、責任
政策	つながり、協働、住民参加、悩む、新しい道、可能性、未来、扉、いろいろなものを取り入れる窓、形にしてい くもの、右往左往、皆で考える、多種多様、十人十色
政策	人とのつながり、協働、熱意、楽しさ、主役、愛着
政策	視野の広さ、立ち止まらない、可能性
政策	よこぐし学問・無限の可能性・愛のある学問・これからの時代に必要不可欠であるが、遠い未来存在しているかわからない、みんなで協力して創っていく学問・協働・超実践的学問
政策	熱意、客観的視点、新規開拓
政策	地域とのつながり、人とのつながり、地域への愛着、熱意、原点回帰、高い志、多様性、チャレンジ精神
政策	原点回帰、横串的学問、ワクワク、どきどき、悶える、志、信念、ぶれる、輪、ひろがり、繋がり、誰かがどこかで活躍できる場、新たな人生をつくる場
政策	教育、文化、環境、魅力化
政策	人とのつながり
政策	地域力
政策	視点の多様性、視点の広さ、心の広さ、本気、協力、協働、想像力、創造力、チャレンジ・挑戦、過去と未来の関係、好奇心
政策	持続発展生、教育性、拡大性、自給性、反省を引き起こし、眼差し、経営、営む

教育	人とのつながり
教育	ボランティア
教育	自主性 様々な発想ができるもの
教育	自立 住民 自主性 民から官へ
教育	コミュニケーション、つながり、新しい発想、挑戦、実践、決意、熱意
教育	つながり、本気、協働、志、なんでもござれ、色々なものを巻き込む、チャレンジ、いい意味で未完成
教育	つながり(人と人、人と地域)、多様な観点、協調性、自主性、連携、熱意、本気、地域を愛する心
教育	創造性、総合的
教育	連続性、試行錯誤、多様な視点
教育	統合、連携、柔軟な発想、実践的、地域を愛する心
教育	人と人とのつながり、持続・継続、次世代への継承
教育	未来に繋がるコミュニティー、迷ったらまずやってみる
教育	熱意 わくわく感 可能性 なんでもあり 協働 視点の転換
教育	視点の転換 情報の共有 発想の転換 志 熱意 団結力 継続 持続
教育	未来への可能性、行動力・実践力、コミュニケーション、親近感、再発見・再構築
教育	自律性、内発的、協働、多様性、相互理解、主体的、つながり、挑戦
教育	最先端の学問、周りとの連携
教育	住民と行政の協働、文化資源の活用、意識化、ハードよりソフト
教育	持続可能 継続 伝統 地元愛 本気 つながり 連携
教育	一体化 総合 連携 人生 使命 協力
教育	可能性、連携
教育	創造性、つながり、努力
教育	マイクロレベル・主観性・意欲・行動力
教育	自分の生活領域
教育	内発性、住民参加、協力、意識改革、人と人とのつながり、積極性、人づくり、価値発見、多様性、可能性
教育	人・自然・歴史など様々なモノとのつながり
教育	マクロとミクロ、総合的、キーパーソン、地域を問う・地域に問う、素養、関心を持つ、交流を広げる場、共育、つながり、再生力、芸術性、ひらめき、持続可能性、市民と行政の協働力、発信性、革新、あらゆる視点から見ること、独自性、行動力、連携
教育	再発見、継続性、協働、地元愛、コミュニケーション
教育	人々の協力、かかわりあい、ふれあい、多くの分野からの考察、リーダー性、行動力、共存する社会、本気、熱意
教育	つながり、学問の統合、なんでもあり
教育	ものづくりが人を育てる、絆、活性化、地域調査、持続可能、実践、信頼感、共有、地域再生
教育	創造性、総合性
教育	地域住民の思い、熱意、行動、目標
教育	実践の学問、創造性、独自性、多様性、協働、連携
教育	熱意、つながり、活性化

教育	総合性、マイクロレベルでみる、地域づくりは人づくり
文化	人づくりは地域づくり、協働
文化	人と人とのつながり、自発性
文化	人と人とのつながり、自分の存在の意義、可能性、志、気持ちの強さ(熱意)、行動力、多様性、視野の広さ、キーパーソン、未来、伝承、ものづくり、持続、協働、自分たちがやる、コミュニティー
文化	飛び込む学問、つながり、協働、地域の力、熱意、
文化	熱い思い、繋がり、協調性、思いやり、粘り強さ
文化	つながり、持続力・継続力、広い視野、広範囲に影響する、創造性、実践、熱意、何でもアリ、
文化	協働 つながり 可能性
文化	主体性・連携(つながり)・学術的・視野の拡大・熱意・持続可能・連続性・過去から未来へ・官民一体・そうぞう(想像・創造)力
文化	主体性、つながり、能動的、もどかしさ、柔軟な発想、意志、協働、新たな発見、創造、未完成で定義づけが困難、活動的
文化	実践、多分野
文化	協働、国際性、独自の文化、自治体、過疎化、意思、内発性
文化	独自性、自治性、創造性、主観的、フレキシブル
文化	協調性、行動力
文化	連携 継続力 持続可能な取り組み 多様性 熱意 実践 視野を広げる
文化	つながり 幅広い視野 継承 未来 協力 ドキドキ
文化	地域、芸術、人づくり、再生、コミュニティ
文化	気づき、積極性、日常性、助け合い、実行力、輪
文化	協働、地域間の交流、人々とのつながり、世代を越えた関わり、熱意、決断力、挑戦をする姿勢、伝統の継承
文化	既存の学問の統合化、理系学部、芸術性
文化	共同 密着型
文化	地域連携 主体性 自立支援
文化	協働、相互性、つながり、熱意
文化	曖昧 小規模 実践 総合的 新しい学問
文化	協働、コミュニケーション、つながり、価値観、個性、特性、魅力、実践、発見、転換、伝承
文化	学問の総体、実践の知、現場主義、自発性、本気になる、迷い、主観的、出会い
文化	自発性、ボランティア性、情熱性、創造性、協調性
文化	私が第2・3部の事例から感じ取った地域学のエッセンスは「協働」です。なぜなら、第3部の「ホルモンうどんによる地域の活性化」で鈴木さんと皆木さんがより良い地域づくりには、意識のある市民と彼らをサポートする行政とが協働していくことが重要であると言われていたのが印象に残ったからです。地域学において重要であるのは人と人の繋がりにあると思います。人と人が協働していきることが地域学という学問を成り立たせているものだと思います。
文化	つながり 熱意 ゆらゆら ぶれる 本気 内発性 連携 実践 地域の人を主体に据える。最先端 協働
文化	視野の拡大

文化	つながり、協調性、絆、歯車
文化	自立、個性、つながり、団結力、思いやり、地域参加型、地域密着型
文化	活躍の場の拡大・全員が主役・自発的行動・視野の拡大・持続力・粘り強さ・差異を受け止められる積極性・現在進行形の学問
文化	観察力、比較力、積極性、意欲性、たのしい、本気、探究心、協力性、ものづくり
文化	連携、熱意、何でもアリ、視野の広さ、牛歩、日進月歩
文化	協働、連携、統合的、熱意、連続性、持続性、継続、主観的、新しい生き方、最先端、視野の広さ、つながり、異なるものとの出会い
文化	人とのつながり、柔軟性、協働、愛情、愛着
文化	地域への愛、絆、熱意
文化	持続性・協働・主体的・新しい発想・連続的
文化	住みやすい、安心
文化	「つながり」を選びました。地域学は自分自身のまわりからの人・土地・歴史など様々なことを含まって関わっています。その地域に関心を持って、真剣に交流したい気持ちでたくさんつながりを作っているうちに、この地域の問題も自分ごとのようにまじめに解決方法を探すようになりました。地域学は地域に根ざしている学問だと考えます。
文化	社会との公益性、人とのつながり、積極的、協力
文化	小規模、実践、総合的、新しい学問
文化	熱意、努力
文化	楽しさ つながり コミュニケーション 新しい 温故知新
文化	世代間交流、コミュニケーション、伝統、芸術、協力
環境	新しい視点、思考の持続→行動(活動)の持続、行動力、団結性、(過去と未来の、もしくは市民間の)連携、目標の設定、生活、愛郷心
環境	協力 人 挑戦 戦略 活性化 半農半 X コミュニティスクール
環境	協働 総合性 志
環境	つながり 創造 本気 熱意 持続力 可能性 幅が広い 連携 協働 試行錯誤 暗黙の知
環境	創造力・活性化・再生・屈しない
環境	協調性、実践、思考力、発想。
環境	地域連携、地域活性、つながり、交流、人との関わり、流行、キーパーソン
環境	内発的、つながり、連携、積極性、子供、試行錯誤、広い視野、客観性、自主性
環境	つながり、創造性、想像性、期待感、不安、協働
環境	国際性、未知、キラキラ、子供の教育、積極性、関心、
環境	半農半 X エイブルアート 無形資産 後世に何を残すか 総合性 内発性
環境	志、ゆっくり考える、統合性、根性、広い視点、考えの転換、ぐずぐず、可能性が広がる、熱意、改革
環境	過去と未来、連携、
環境	団結力、志、発想力、表現力
環境	協働 現場主義 本気
環境	多様性 団結力 発展性 志

環境	現場主義、人のつながり、可能性、熱意、情熱、
環境	地域性 住民主体 外からの視点 広域性 統合性 連携 多様性 自分たちができることをやる 情熱
環境	可能性 志
環境	つながり、熱意、志、新しい生き方、主観的、最先端、未知の学問、なんでもあり、活躍の場の拡大、試行錯誤、改革、文化の広がり、挫折、過去・未来・現在、科学
環境	つながり、主観的、熱意、多様性
環境	わくわく感、創造性、協調性、切磋琢磨、試行錯誤
環境	統合性、広い視野、現状把握、行動力、団結力、繋がり、挑戦、熱意、創造力
環境	多様性、価値観、協調性、目標、
環境	無限の可能性、地域のとつながりの重要性、元気な地域づくり、未来の子供たちのためのまちづくり
環境	幸福の追求、総合的学問、新しい学問、
環境	コミュニケーション、ことば、外部への発信、ひたむき、挑戦、遠回り
環境	学際性、可能性、多様性、内発性、連続性、総合性
環境	連携 発信 統率力
環境	つながり 悩み 人 力 試行錯誤 理想 多様性
環境	主体性、過去と未来
環境	広い視野、新発見、尊敬、生き方そのものが地域学、つながり
環境	熱意・本気・積極的・地域活性化・連携
環境	独自性 自発性 相乗効果 ふれあい 教育 協力 絆 持続力
環境	協働、交流、地域一体、多様性、最先端、過去と未来
環境	未知への挑戦・熱意・がむしゃら・改革・犠牲・確変
環境	積極性 活性化 つながり 思いやり 楽しむ心
環境	連携 内発的 熱意 根気 愛
環境	コミュニケーション 統合性 総合性 地域活性 協力 交流
環境	地域交流、協働、多様性、持続、継続
環境	自発性、積極性。
環境	第2部の事例から感じ取った地域学のエッセンスは「もっと地域を知ろう」ということが大事です。過去の出来事も現在の出来事も重要だと思います。つまり、地域の過去の出来事を見習って、現在から未来の地域を作ります。

2) 全体的な感想や意見

学科	全体的な感想・意見
政策	色々な方が外部から来てくださりとても面白かった
政策	学生の予習事項発表では、一年生と思えない内容に驚いた。それ故に自分たちが行った調査実習が河原町最後の調査を担当する後輩たちに何かしらの力になり得たのだろうか、という疑問や、この三年生という大事な時期に地域学とは何か、という根本的な疑問、考えを再び学べた機会は大きいと感じることができた。
政策	講義レポート提出場所がわかりにくい

政策	ディスカッションがすごくおもしろかった。発言ができてよかったです。人の考えている・捉えている地域学というものを知れて良かったです。特にいいとおもったのが「何でもできる」というキーワードです。何でもできるからこそ多様であることができると感じた。
政策	地域学は本当に未知の可能性を持っていて、自分が主体的に動けばどんどん切り開いていけると感じました。地域づくりを実践するには、まず自分が地域に出て、地域を体感し、愛することから始まると思います。この講義を受けて、最初のころに持っていた地域への考え方やイメージが180度変わりました。本当にありがとうございました。
政策	地域学という大きなくりで最初はあまり関心が湧かなかったけど、たくさんの先生、実践者から地域との関わり、生き方を学ぶことができ、自分の中で少しずつ地域学というのが体にしみ込んできました。これから地域学を学ぶうえで、地域と自分の関わり方、自分は地域でどう生きていきたいのかを考えながら地域学と向き合っていきたいです。
政策	さまざまな方のお話を聞いて、地域学とはなんなのかがはっきりとしてきた。そして、自分も地域を愛していつか地元のために働きたいという思いが今まで以上に強くなった。全部の講義を通して、本当に楽しかったです。
政策	色々な分野の活動を学べてよかった。地域とは多様かつ複雑な要素で構成されていることを実感できた。
政策	もともと地域学に興味があった私にとって、いままで習うことのできなかつたこの分野の授業はとても楽しく、有意義なものでした。特に3部の外部講師の方の話は本当に魅力的で、おもしろく、もっと深めたいと思いました。
政策	考えるだけでなく行動が必要であり、活動量が経験として蓄積されると感じた。
政策	この授業は回数を重ねるごとに面白く感じ、とても有意義な時間が過ごせたと感じます。私自身政策学科で、この授業までは政策の分野しか興味がなかったのですが、この授業を受けることで、文化学科の分野にもとても興味があることがわかりました。今までよりも世界観が広がり、とてもよかったと感じています。
政策	実際に活動している人のお話が聞けてとても良かった。地域学というものが具体的な例がでたことによりよりわかりやすくなった。
政策	もともと地域学部の方針に迎合して入学しているので興味を抱いたり、納得したりしたのはある意味当然でもある。しかし地域学の領域というのは自分が思っていたより遥かに広いことに気づかされ、最も興味ある分野に限らず地域を構成する要素のすべてが「資源」となり得るのだと感じた。
政策	実践的な内容ばかりでいつか参加したいと思えた。
政策	とにかく楽しかった。先生方の話はもちろん、外部からの人の話も聞けて、よい機会に恵まれてるなと感じた。話に集中しすぎて、メモを取ってない時も多々あった。これからの授業がとても楽しみにになった。
政策	地域貢献に意欲が出てきた
政策	自分の出身地とつなげて考えることができる講義内容が多く、とてもためになった。
政策	地域学入門より地域学吸門との題名がふさわしいような気がした。多くの実践を取扱った魅力ある講義は門に入るというよりは門に吸い込まれるという抗いがたい魔力が存在するように感じた。最近まで学問体系として存在しなかった地域学であるがその理念にのっとって行動した人々は昔から在野に多くいたことを実感した。
政策	今日はとても興味深い話が聞けてよかったです。次は自分も議論に参加したいと思いました。
政策	普段聞けない貴重な話が聞けたので、よい経験になった。
政策	第三部が一番自分としては印象に残っています。「地域学」というものが入学時に比べて、より具体的に理解することができました。

政策	実践の知に学ぶということで行われた第3部は実践者の意見ということで興味深く聞けた。もっと実際現場にいる人の意見を聞いてみたいと感じた。
政策	今まで「地域学」というものが全く分からなかったが、講義を通して大まかな形をとらえることはできたように思う。今後は実践的な活動が増えると思うので、これまでの講義の経験を活かしてしっかり取り組んでいきたい。
政策	自分の思っていたような、想像していたものと違った。自分の地域とはどんなものなのか、これから考えてひとつひとつのつながりの形成に貢献したいと思った。
政策	地域学入門の講義を受けなければ知らないままであったはずの多くの実践が聞いて面白かった。講義でお話された方のように自分も地域のキーパーソンになりたいと思えるようになった。
政策	いろいろな人たちの、街づくりや地域の取り組みについての話を聞くことができて、とても面白かったし、興味深かった。また、自分でもいろいろな街に出て行きたいと思った。
政策	講義はとても新鮮で何もかもが新しいことでした。地域学はその新しいことをいろんな視点から学べて、想像力や自分で考える力を身に付けられる学問だと感じました。
政策	いろいろな方の話が聞けて、とてもよい経験になったと思う。自分の知らない世界を知るきっかけになった。
政策	様々な場で活躍される方のお話が聞けて、地域を活性化させるためには多くのことが関係しているのだと改めて実感させられました。自分もそこに関わることができるよう、今後の講義でも積極的に学んでいきたいです。
政策	地域学についてはこの講義を通じて様々なことを学んできたが、今回の講義でほかの人の意見を聞き、さまざまなことが分かった。後期ではより深いところまで学びたい。
政策	第三部からは実際にまちづくりをしてきている人たちのお話を聞きことができ、その熱意に驚かされた。まちづくりは生半可な覚悟で首を突っ込むべきではないんだなと少し怖気づいた。地域学を実践的に行っている方たち出逢うことで自分のやっている学問が何かの役に立つかもしれないということがわかって本当にいい機会になったと思う。
政策	第一部は抽象的な内容が多くて分かりづらいつ感じていましたが、その後の第二部や第三部へと移行するにあたって、少しずつ内容を理解することが出来るようになっていきました。ホルモンうどんや海士町の取り組みなど、現場の状況を窺い知る機会を得られて非常に嬉しかったです。
政策	「地域学」について全く何も知らなかった自分にとってほどの講義も驚きの連続で聞いていて楽しかった。また、地域づくりに興味を持ち淀屋にも参加するなど積極的に地域にかかわれるようになった気がする。これからも地域学入門で学んだことを忘れずに地域学を学んでいきたい。
政策	講義全体を通して、自分のことについて考えさせられた。地域のこととはいえ、やはり個人の生き方に繋がっていくことが多く自分が地域の中で生きがいを見つけていくということへの希望を感じた。これからも地域に関連した行事や取り組みなどを敏感に察知できるようにし、そのような活動にどんどん参加していきたいと思う。この地域学入門で得た自分の思いをずっと忘れないで将来自分が地域のキーパーソンとなって働いていく際の原動力としていきたい。
政策	最初はどのような講義であるのかがよくわからないままであったが、最近になってから具体性を感じる事ができたような気がする。
政策	地域学の可能性の広さを感じた。
政策	話を聞いてより地域への関心が高まった

政策	その講義は地域の問題、どんな課題があるかを紹介してくれて良かったと思う。あまり考えていない物事を自分で知られたらほんとうに感謝した。この講義を受講して地域学部ではどんなことがやるのかとどんな研究があるのかと少しずつ見えるようになった。これから4年間鳥取大学で地域学部で学んだことを手に入れて社会に役に立つ人間になりたいと思う。
政策	最初の時、地域学でどんな学ですかと聞かれた時自分が答えられなかった、でも授業を通して地域学は地域を経営する学問と認識しました。最も意義があることは自分が地域学という学問を知ったことだと想います。
教育	地域学の幅の広さや奥深さを知ることができてよかった。
教育	とてもためになりました。
教育	地域については今まであまり考える機会がなかった。しかし、講義を受けて地域の見方が変わった。地域学というだけでも様々な種類の講義を聞いたので様々な方法で考えることができるものだとということが知れた。地域学はほかの学問より机上の空論だけで終わってはいけない学問だと感じた。講義を受け、地域学の考えを学び実践して、初めて地域学を学べたということになると討論会を通して感じた。
教育	最初は「地域学」というものにほとんど興味がなかったが、講義を重ねるごとにだんだんとおもしろく感じてきました。
教育	いろいろな方の話が聞けて良かったです。地域活性化のために、こんなに熱意をもって活動しておられることは知りませんでした。また、その頑張り方も様々で、勉強になりました。
教育	地域学が何かは今でも理解しているわけではないけれど、これまでの講義を受けて、現場の人たちの苦労・工夫や喜びなどを多少なり理解でき、地域をより良くしていくために、どうすればいいのかを考えるいい機会になったと思います。
教育	初めは、地域学という学問が一体どのような学問なのか分からなかったのですが、地域学入門の講義を通じて少しは理解できたかな、という気がしました。また、地域学入門の講義がなければ関わるものがなかった分野の話も(内容が少し難しく理解しにくい部分もありましたが)、聴くことができたので良かったです。また、実際に地域のために活動されている方の話も聴くことができたのでとても良い経験になりました。
教育	関心が高まった。
教育	地域のさまざまな取り組みを知ることができてよかった。
教育	第1部から進んでいくにつれて、地域学についての興味がわいていきました。地域を何とかしたいという人々が決していないわけではないことを知り、感動しました。最後の討論会では上手く話す自信がなくて発表できませんでした。児島先生がおっしゃった、“一歩踏み出す勇氣”をこのような場でも活かせるようにしたいです。
教育	地域学について何も知らない状態で入学したがこの地域学入門の講義により地域学について少しは理解ができたと思う。興味のある内容の講義も多く、今後4年間地域学部で学んでいくうえでの始まりの1歩になったと思う。
教育	地域学に関してより学びが深まった。具体的政策を多く聞くことが出来て楽しかった。
教育	毎回興味深いお話を聞くことができてとてもよかったと思う。
教育	みなさんの考えを聞き、地域学とはとても広い分野で物事を考えることができるのだと感じた。考古学や経済学あるいは物理学までも使えることができる地域学に入ることができてうれしく思う。

教育	「地域学入門」の講義を受けるにつれて、自分が長い間どれだけ鳥取に生かされてきたのか、思った以上に鳥取のことが好きだったことを実感しました。また、知らないこともたくさんあるとわかりました。地域学部に入學しなかったら、これほど地元のことを考える機会は人生の中にはないのではないかと思います。私は地域教育学科の学生であるので、地域に根付いた学校、地域から求められる学校とは何か、自分が専門としたい教科分野と絡めながら研究できたら、と思っています。
教育	「地域学入門」の様々な講義を聞き、今までまったく知らなかった地域学のことを知ることができ、少し興味を持つようになった。講義の中で、ひとつのつながりを感じれるものや挑戦的なものが多いと感じた。
教育	地域学についてだいぶ学べたのでそれを活かした活動を行いたいと思った。
教育	地域を考える教授陣、地域住民の方々皆に熱意を感じた。
教育	今まで地域について考えたことがなかったのですが、講義を終えて、地域学に興味がわきました。特に、第三部はとても興味深かったです。鳥取を改めて好きになり、今後、鳥取を活性化させたいと思いました。
教育	初めて学ぶ学問に戸惑いもありましたが、講義を通して地域への見方が変わりました。ためになる楽しい講義だったので地域に自然と興味が湧くようになっていました。講義を担当して下さった先生方、また司会進行を担当して下さった竹川先生、ありがとうございました。
教育	地域のことについて知りたいと思うようになり、非常に関心が高まりました。
教育	地域学についての知識が深まった。
教育	今まで地域学にそんなに興味はなかったが、講義を通して興味が湧いた。お話をしてくださった人たちは、地域の問題を主観的に見て、そしてその問題解決のために意欲的にとり組んでいる姿をみて、私自身も何ができるのか考えるきっかけになりました。
教育	私は、島の出身で生活してきて地域との関わりが今までたくさんあった。自分なりに地域での課題を発見し、その課題を自分の夢である教員の立場で島に戻り解決できるキーパーソンになりたいと思い入学した。前期での地域学でたくさん考えていきたいことと知識がついたので、これからボランティア活動などを通して学習を深めていきたい。
教育	「こうしていけば、地域は良くなる。こうすれば、住民も活躍できる。」という、授業でも学べるような、ありきたりな内容でなく、実際に行われている活動や、政策についての話を聞けたのが良かったと思う。いままで、地域活性化のための活動などには、あまり関心がなかったが、地域教育学科にいることが悔やまれるくらいに、地域政策に取り組みたいと思うようになった。
教育	入学した当初は地域学について何も知らなかったが、地域学入門の授業を通して様々な面から地域学について学ぶことができた。
教育	自分が浮かばなかったキーワードがたくさん出てきて、もっと考えが深まりました。もっと実際に地域とかかわって、いろいろ感じたいです。
教育	最初は地域学ってよくわからないから受けたくないなあというのが本音だったけど、講義を聞いて様々な取り組みや面白い話が聞けてとても勉強になった。特にコミュニティスクールについては聞いて良かったと思う。まだ地域学をつかみきれていないけど大学の間で自分の答えを見つけれたらいいなあと思った。
教育	どの講義も、話をしてくださる方のそれぞれの意見を聞くことができ、自分の視野を広げるいい機会になったと思います。
教育	地域学は様々な学問につながっていると思った。

教育	地域学とは、未知なものであると思いました。答えがあるわけではなく、一人ひとりそれぞれの考えが答えとなって地域学という学問は形成されていると感じました。これからもどんどん発展していくであろうと思いました。とてもおもしろいものであると思います。すべての講義において、講師の方々の熱意がとても伝わってきました。私も、この地域学部にて在籍している4年間のあいだに学びを深めて、自分の好きなことを、熱意をもって発信できるような人間になりたいと思いました。
教育	関心が高まった。
教育	講義してくださった皆さんがとても熱い思いを持っておられて、このような熱い思いに周りの人々は突き動かされたのだろうなと感じた。また総括ディスカッションでは、他の人はこのように思っていたんだな、そのような考え方もあるんだなと感心した。このような最後のまとめとしてディスカッションをするのは、他の人の意見を聞けるよい機会であるし、自分が何を学んだのかを見直すきっかけとなり、とてもよいと思った。地域学入門で学んだことを生かしていきたい。
教育	もともと教育学部志望だった私は、「地域学」という学問を大学に入って初めて知りました。しかし、幅広い分野が統合された地域学は、講義を受けるにつれて魅力的な学問だと感じるようになりました。
教育	はじめは地域学についてよく分かっていなかったが、第2部や第3部の様々な方の実践を聞いて、いろいろな方法で地域に貢献し、地域学に関わっていけることが分かった。地域学入門で学んだこと、理解したことをもとに、これから自分も地域のキーパーソンとして地域を変えていくことができればいいと思った。
教育	地域学についての興味が深まった。
文化	地域学の意義などを深く考えることのできた充実した時間を過ごすことができた。
文化	総括ディスカッションでも言うておられたけど、地域学とは本当に何でもありの学問だということを強く感じました。人が集まるような活動をして地域ににぎわいをもたらすことが地域の活性化につながるのだと理解しました。
文化	最初に、地域学の概念の概要の講義受けてから、実際の活動の講義を聞くことで頭に入ってきやすかったし、第三部は印象に残るものが多かったです。
文化	講義で先生方の研究から実際に地域で行われている実践まで、様々な地域学を学ぶことができ、自分自身の中で地域学とはどういうものなのかということが見えてきた。この見えてきた部分をこれからまた地域学を学んで行く中で広げていきたい。
文化	それぞれの回で先生方や、実際に地域のために活動している人の話を聞いて、みなさんが本当に一生懸命地域のことにについて勉強したり、考えているのだということを感じました。また、最後の回のディスカッションで先生方や多くの学生のキーワードとなる言葉を聞いて、よりいっそう地域学についての関心が高まりました。
文化	教授の先生方や地域のキーパーソンとして活躍されている方々の生のお話を聞くことができ、良い経験になった。地域学とは何か、という課題をより深めていきたいと思うようになった。
文化	地域の見方が変わった。大切にしよう、貢献したいと思えるようになった。
文化	「地域学」というはっきりと定義づけられていない学問だからこそ、様々な学問が関わることができ、それらが「つながる」ことで、様々なことが実践することができ、「地域学」という学問が出来るといことが講義全体を通して分かった。
文化	最初は正直あまり地域学というものに興味はなかったのですが、この講義を通して興味を持つようになりました。地域学はさまざまな学問とつながっているため、実はすごく魅力的な学問なのではないかなあと考えるようになりました。そして、地域貢献できる人間になりたいと思いました。
文化	いろいろな話が聞けて見解が深まりました。

文化	なかなかはっきりと定義できない「地域学」というものを、この講義を通して、まだぼんやりとですが考えることができました。
文化	正直、地域学に興味を持ってこの大学に入ったわけではなかったが、この地域学入門を通して、自分の全く知らなかった問題について考えるようになり、考え方も変わった。大学4年間のうちに自分のできることはアクティブにどんどんやっていきたいと思ったし、地域の抱える問題についてもっと様々な視点から、深く考えていきたいと思った。
文化	自分が良くも悪くも最先端を走っているのだという自覚が生まれた。自分の頑張り次第で地域学というものがどういふものであるのかが決まってくると思うので、全力でプッシュしていきたい。
文化	一番印象に残った講義は海士町の町長の話でした。町を変えるために、人に指示することから始めるのではなく、自分の身を削ること(給料の減額)を行うことで指し示しているところが本気で町を変えたいという思いがひしひしと伝わってきて自分も何かを始めようとする際、自らの行動から始めたいと思いました。
文化	地域学について学んできて思ったことは、地域学について大事なものは、様々な視点から、地域をつくるため変えていくための方法を見つけ出ししていくことだということです。また、地元地域についてだけでなく、鳥取の地域性などについてももっと知りたいと思うようになりました。
文化	この講義を聴くまで地域学で何をやるのか全く分からなかったけれど、この講義のおかげで地域学で勉強することや地域のいろいろな取り組みがわかりとても勉強になりました。
文化	地域学とはどういう学問なのか分かりました。
文化	地域学と一言でいっても、アプローチの仕方は多方面からある。“地域”というキーワードが共通点となって、毎回テーマの違うさまざまなジャンルの講義をきくことができ、もっと地域学への知を深めていきたいと思った。
文化	どのようなことをするのか分からなかった地域学について少し理解することができました。大学4年間で地域学について深く理解できるように努力しようと思います。
文化	ここまで地域学が深いものだと思わなかった。自分の出身町を活性化させるために役立つと思った。
文化	受講前までに抱いていたイメージとはだいぶ異なり、幅広い分野にまで研究の範囲を広げていたので、自分にとっても興味もてる内容がたくさんありました。
文化	他の講義と比べて、非常に特異な講義だったが地域学の特徴を考えると重要で必要不可欠なものだった。
文化	初めは「地域学」というものがどのようなものなのか全く想像つかなかったが、講義を通して、少しではあるが分かった。しかし、それもほんの一部であり、これから学ぶ機会も多くあると思うので、頑張って取り組んでいきたい。
文化	私は地域学がどのようなものなのか何も知りませんでした。多くの講義を聞いていく中で地域学がいかに幅広く、重要なものであるかを知ることができました。 今はまだ調査や、理想を語るだけに終わっているものも、実際に行動に移して成功を収めつつあるものもありましたが良い取り組みや考えばかりでした。
文化	入学当初は「地域学」とはどんなものなのか、ほとんどわかりませんでした。講義を重ねる度に、少しずつ自分が学ぼうとしていることが明確になってきてよかったです。地域に対して自分に何ができるのか、これからも考え続けていきたいです。
文化	普段聞くことのできない貴重な話の数々を聞けたことは非常に良かった。また、地域のために本気になっている方々がたくさんいることを知り頼もしく思った。自分も積極的に地域に参画していきたい。

文化	最初は地域学は未知でありどういものなのか分からなかったが、授業を通して興味をもつことができた。より関心を深めて、次の地域調査実習にとりくみたい。地域学が楽しくなってきた！
文化	最初は地域学がどのような学問であるのか全く分からず、どのようなことを学んでいくのか不安に思っていました。受講する内に地域学の魅力が伝わってきて、地域学とは現代の自分たちにとってもっとも身近な学問であると感じました。これからは積極的に地域の活動に参加して、地域のキーパーソンとなるように努めていきたいと思います。
文化	どの講義からも実践者の熱意が感じられた。実践の陰にはつながりがあるということに気付かせるような講義が多かった。
文化	地域学を学ぶ意欲がとても高まりました。
文化	最初は地域学というものに対して何も知識がなく、八方ふさがりの状態だったのですが、15回の授業で地域学とは何なのかということについてじっくり講義を受けて徐々にわかってきたように思います。第15回の全体ディスカッションでは、多様な意見を吸収することができ、地域学とは何か？という問いの答えに一步近づくことができました。結局それについて自分なりの完全な答えが出るにはまだ時間がかかりそうですが、これからの大学生活を通して多くのことを学び、答えを出そうと思います。
文化	大学に入学するまでは地域学についての知識がなく、曖昧な存在と思っていた、しかし、この地域学入門の授業を通して今までになかった学問性を感じるようになってきた。これまで見落としがちな問題を地域学の観点から解決できるのではないかと感じた。これからは文化というジャンルに絞って、自分の研究内容を見つけ考えていきたいと思う。
文化	この大学に入るまで「地域学」という学問の存在を知らなかった。しかし学びを進めるにつれて、地域学がこれからの社会で大変重要になる学問であると認識した。また、それをより深く学びたいと思った。その第一歩として、海士町のフィールドワークへの参加を決意した。それをきっかけに、「今しかできない学び」を深めていきたい。
文化	現在地域づくりをしている人の話を聞いて、地域づくりにはいろんなところ(分野)から取り組んでいけることが分かりました。また、半端な気持ちでは成果を出すことはできないと感じた。
文化	どの話とも興味深いものばかりで、毎回わくわくしていた
文化	地域学部に入ったものの、地域学とは一体何なのか漠然とした想像しかもっていなかった私ですが、この講義からその答えのヒントとなるものが得られたような気がする。地域学はまさに現代に必要とされる学問であるとともに、最先端でありながら未開拓でまだ模索する余地が大いに存在しているように思う。それはある意味多くの可能性を秘めた学問とも言える。講義を通して地域医学への興味が高まり、その可能性をどんどん見出していけるようになりたいと思った。
文化	講義が始まって最初は、地域学とはいったい何だろう、という問いに決まった答えがあると思っていたが、実際はそうではなくて地域学は、自分で問題提起してそれについて考えていくものだとわかった。これから、たくさんのお話を勉強していくが、自分の知識・考えたことをうまく表現できるようになりたいと思った。
文化	皆が考える「地域学」はそれぞれで、正解も間違いもないからこそいろんな発想があって「地域学」はおもしろいなと思った。皆が地域学について議論しているときも熱意が感じられたので、何かをやろうとするからにはやはり熱意が必要、というよりは熱が入るのだらうなと感じた。さまざまな可能性を秘めている「地域学」をこれからも深めていきたい。
文化	地域学は、とても可能性を秘めた学問であることがわかった。これからはたくさんのお話を学んでいきたいと思った。

文化	たくさんの方の素晴らしい話を聞いて、とてもいい勉強になったと思います。
文化	私は地域学に興味を持って地域学を選びました。実は地域学はどのように広いかよく分かりませんでした。衰えていく地域を見て、解決しようと考えても、解決方法はあまりないと疑問がありました。しかし、この授業を通じて、実際に成功した地域づくりの例をたくさん見てから、だんだん自分の考えが変わってきました。今の私は一つ一つの地域でも個性を持って、豊かな地域が作れると信じて、これからこれについてもっと学んで、取組みたいと思います。
文化	この授業が私にとって最も為になる講義でした。
文化	一部から三部を通してそれぞれの抗議から感じられるものがありました。面白かったです。
文化	毎回の授業がすごく新鮮であり、新しい発見で面白かった。あまり興味のなかった地域学にも関心がもてるようになった。
文化	「地域学」に対してはじめはあまり具体的なイメージが持てていなかったが、講義を通してほんやりであるが見えてきたような気がする。そして、地域学の幅広さに驚き、興味が増した。「行ってみたい」、「やってみよう」と思うことがたくさんある。これからの3年半が楽しみである。
文化	「地域学」と初めて聞いたときどのような学問か全くイメージがわかかなかったが、これまで15回の講義を受けて、「地域」を眺めるきっかけになる事柄はすべての学問、地域の伝統などに潜んでいると気がついた。
環境	はじめ、地域学とは何か？今の時代に本当に必要な学問なのかなどとひねくれた考え方でしたが、さまざまな教授の地域学についての考え方を聴き、少しずつですが自分なりの地域学を定義することができ、自分なりの地域学をもって講義を受けると、さらに理解が深まりました。地元に戻った時などに、まわりの人に地域学について知ってもらったり、意見を交換したりして少しでも地域の活性化につながるきっかけづくりができたらいいなと思いました。
環境	地域学という考えが変わった
環境	初めは地域学がどのような学問か分からなかったが、講義を受けていくにつれて少しだが分かったような気がする。
環境	地域学とは何か？ということは、たくさん考えてもなかなか結論の出ない学問であると思っていました。しかしながら、この講義で学んでいくうちに結論が出ないというより、さまざまな結論があるように思うようになりました。つまり、多種多様な側面から地域を見て考えて実践することが地域学の本義であると思います。
環境	地域というものの複雑さや住民によってどのようにも変わることができるということ。
環境	毎回講師が変わって、いろんな話が聞けたのはよかった。ただ、毎度のレポートの指示がよくわからなかったたのでその辺りをもう少し明確にしてほしい。でも基本的には新しい話や知識を得ることができたので、面白かったです。
環境	考えるよりも、まずは行動してみようと思った。地域のリーダーになる人は、人を惹きつける何かを持っていると感じた。この地域が好きだという思いがすごく伝わってきて、好きだからこそ、こんなにも情熱的になれるのだと思った。たくさんの方の、様々な体験や経験をとおして、感じたことや考えたことを聴く機会があつてよかった。これからの自分に役立てていきたい。
環境	自分のためになったと思うが、思ったより興味、関心はわかかなかった。後期は興味がわくような活動をした。
環境	自分の視点だけでなく、様々な人の多くの多くの考えを聞いたので、自分の視点が広がりました。

環境	自分なりの地域学を学び、見つけていくという意味が講義を通していくにつれて自分も意識してきていることを実感している。特に、自分の興味のある分野と絡まっていきどンドン広がっている。こういった学問？は学問と意識するにしてもかなり不思議な感覚であり、複雑な感じがする。
環境	地域学については、あまり分かっていなかったのですが、大体どういう学問であるのか理解できた。地域学の可能性を知ることができたことにより、関心が高まり、自分は地域に何ができるのか考えるようになった。また、海士町や、ホルモンうどんの取り組みを聞いた時には、その熱意と根性に驚いた。海士町の財政政策においては、そういうことに興味があったし、国単位でも問題になっているので、参考にしたい。
環境	難しく理解しにくい内容もあったが興味を持てる講義もありよかった。学生の発表がわかりやすかったし関心を持てたのではないかなと思う。レポート課題が少し大変だった。
環境	地域というものにはさまざまな要素が含まれていることがわかった。これらの関わりをしっかりとみていくことが大切であると感じた。
環境	地域学という学問がたくさんの可能性を持っている大きくて広い学問であるのだと感じた。そして人によってとらえ方が違い、そしてそれが許される自由な学問であり、自分たちで作っていくものだったと思った。
環境	地域のレベルの問題を解決していくことが、最終的に大きな成果をあげることになると学んだ。
環境	入学当初は、地域学が何かよく分からなかったのですが、地域学入門の講義を受けることによって、自分なりの『地域学』が見つかったような気がする。
環境	それぞれの地域にそれぞれの特徴があるので、よく調査・研究をして理解していかなければいけないと感じた。そして地域にあったやり方で地域を盛り上げていくことで、より効果的な地域活性ができるのではないかなと思った。
環境	地域の活性化のために貢献している人たちのお話を聞いて、尊敬するとともに自分たちが主体になって活動しようという意欲が大切だと感じました。また、最後の討論を通して多くの意見を聞くことで、そういう考えもあるのかと気づかされることが多くありました。
環境	この講義を通して、地域学とは何なのか、考え自分なりの答えを見つけることができました。とくに第3部の講義を聞いて、地域を引っ張っていく人はこんなに強い思いを持っているのか、と感動したことが一番印象に残っています。
環境	講義を通して地域学がどのようなものかわかりました。また、地域学がとても奥深くて面白い学問だと感じました。
環境	先生方の講義はすごく内容も濃くて、それぞれの個性を感じた。同じ地域学でも、やっていることはさまざまに興味深いことがたくさんあった。まったく違うような分野でもどこかでつながっているということに、地域学への関心を高められた。
環境	人によって「地域学」のとらえ方が違っておもしろかった。自分なりに自分の考える「地域学」の発想をどンドン広げて、将来、地域に貢献できる人材になっていけたらいいなと思った。
環境	地域のための政策がたくさんあった。どの講師のかたも熱意と地域を良くしたいという意思が伝わってきた。せっかく地域学部に入ったのだから、学生活動に参加したい。
環境	全14回の講義を通しての他の人の意見や考えをきいて、いい刺激になりました。これからももっと自分なりの地域学にたいする考えを出していきたいと思う。そしてその考えを地域の活性化につなげていけたらいいと思う。

環境	この地域学入門を終えて、自分なりの地域学がはっきりとはありませんが見えてきたと思います。地域学とは第一回の講義の先生がおっしゃっていた「幸福の追求」であると僕は思います。地域というミクロの視点からでしか解明できない問題を地域の方々と共に考え、意見を出し合いながら解決していくことが、地域の幸福につながり、それが重なり合って日本の幸福、世界の幸福へと発展していくのだと感じました。そのために、地域の幸福を自然環境の視点から追求したいと思いました。
環境	私たちが今後、地域学部で何を学び、将来にどのように反映していくかということのヒントを学ぶことができた。
環境	「地域学」について正直何かもわからず私は入学してきました。講義を通じてこの鳥取のようなローカルな地域の力になれる学問であると私は理解し、興味を持つことができました。
環境	地域学とは何かを考える中で、自分の興味のあることや、これから学んでいくことが地域活性において、いろいろな方向から役に立つことを知り、面白と感じた。
環境	この講義を通して、地域学についてもっと知りたいと思いました。特に第3部の講義は実際に行われている地域の活動について学ぶことができ 私も地域に何か貢献したいと思いました。
環境	全体の地域学を通して自分たちの地元をよくしたいという熱意がすごく伝わった。だからこそ自分たちでもできることをしていきたい。そして、伝統文化を学んで 地域をよりよく学びたい。
環境	正直、最初はそんなに大したものじゃないだろうと思っていた。しかし、講義を受けていくうちに様々な人たちの考えを聞け、様々な視野での物事の捉え方を学べた。自分の今まで考えたこともなかったようなことが聞けたことはこれからの生活の中で絶対に生きてくるだろうし、いかしていこうと思った。
環境	講義全体を通して、地域学にとっても関心を持つことができた。地域活性化に向けた取り組みや、地域との連携の重要性に気づいた。
環境	発表している人、一人ひとりが地域学に対して違ったキーワードを持っていて、またまったく反対の意見があったりと、地域学という学問がまだまだ広いものであると再確認することができました。このような意見交換ができる抗議がもう少し早い段階であったら、その後の抗議でそういう視点も交えながら考えることができ、より地域学に興味を持つことができたのではないかと感じました。
環境	毎回講義が観点、目線が違っていたが、地域をよくしたいという目的は同じだったのが面白かったです。個人的には山内町長の「地域生き残り戦略」が興味深かったです。
環境	人それぞれ自分が考える地域学というものは違うが、いろんな人の意見を聞くことで、自分の地域学を考えるうえですごく参考になった。
環境	僕が興味あるのは環境にかかわることなので今後はそっち方面の研究を深めていきたいと思った
環境	「地域学とは何か」講義を重ねていくうちに、どんどんキーワードがでてきてとても幅広いものだと感じた。
環境	地域学に興味をもてた
環境	みんなそれぞれ感じているところが違うのだと感じた。いろんな意見を聞くことによってそういう考えもあるのかと、気づかされた。
環境	議論が激しくもっと講義を聴きたいと思うようになった。

環境	私は最初に「地域学」と聞いて町おこし、もしくは村おこしを想像しました。今回、この「地域学入門」を受けてみて、様々な地域づくりの在り方を目の当たりにし、深く考えさせられました。そこで思ったのですが、先生方や、講師の方が口々におっしゃっていた「地域づくり」という事柄は、私が今まで知っていた「町おこし」と違うのでしょうか。違うとしたらどのように違うのか、知りたいです。最後まで分からずじまいで、その点が少しだけ気になりました。
----	---

5. 終わりに～今後に向けた課題

学生へのアンケートの結果や自由記述欄における学生の感想が示しているように、本講義は「地域学」に関心をもって入学した学生はもとより、「地域学」に関心が無かった学生についても「地域学」への興味・関心ひいては大学で学ぶ意欲や目的意識を高いレベルに引き上げていることが多々あり、その意味で、2012年度の地域学入門は、例年以上に初年次必修科目としての役割を果たしていると評価することができるだろう。特に印象的だったのは、地域環境学科の学生が本講義を受けて、「地域学への興味・関心が高まった」とする割合が43%、「やや高まった」の40%と合わせると83%の学生が肯定的な評価を与えており、昨年度の課題であった地域環境学科の学生の学びの意欲を引き出す配慮が功を奏したと言える点である。入学時から例年よりも地域学に関心を持っていた学生が多かったこともその要因といえるだろうが、第二部で中間討論を廃したり第三部の外部講師を1回削減することで、その分を地域環境学科の先生の登壇に充当したり、第三部では半農半Xを掲げる塩見直紀氏が、環境問題を解決するための実践を分かりやすく提示したりなど、理系の知と地域学のアプローチを結ぶようにシラバスを工夫したことが、やはり大きく影響しているのではないと思われる。しかしながら、今年度のアンケート結果をみると、地域教育学科の学生の反応がやや沈みがちであるのが気になる点である。講義に対する評価そのものは決して悪いわけではないし、自由記述を見ても肯定的で積極的な意見が数多く回答されており、教育効果はそれなりに高いという判断はできるが、それでも相対的に「地域学」への関心が低いことは事実である。それゆえ今後は改めて教育と地域の関係性を検討し、教育的配慮をシラバスに反映させることが必要になるとと思われる。

文献

- 鳥取大学 (2011) 『平成 23 年度入学試験に関する調査』。
- 渡部昭男・竹川俊夫・土井康作・野田邦弘・岡田昭明 (2009) 「初年次必修科目『地域学入門』における地域学部新入生の変容—2009 年度における授業実践のまとめ—」『地域学論集』6(2), pp.69-104.
- 渡部昭男・竹川俊夫・足立和美・鶴崎展巨 (2010) 「初年次必修科目『地域学入門』における地域学部新入生の変容 (第 2 報) —2010 年度における授業実践のまとめ—」『地域学論集』7(2), pp.157-96.
- 竹川俊夫・土井康作 (2012) 「初年次必修科目「地域学入門」の 2011 年度授業実践報告」『地域学論集』8(3), pp.75-104.

(2013 年 6 月 7 日受付, 2013 年 6 月 13 日受理)